

28L-am04S

中国産キク科 *Ligularia brassicoides* および *Ligularia sagitta* の新規 Diels-Alder 型付加体

○谷口 瑞穂¹, 齋藤 義紀², 岡本 育子¹, 中島 勝幸¹, Xun GONG³, 黒田 智明⁴, 通 元夫¹ (¹徳島文理大薬, ²長崎大薬, ³昆明植物研, ⁴立教大理)

【目的】中国横断山脈地域におけるキク科 *Ligularia* 属植物の多様性研究の一環として, 今回四川省で採集した *L. brassicoides* および *L. sagitta* の成分を調査した.

【方法】 *L. brassicoides* および *L. sagitta* の根の EtOAc 抽出物について, シリカゲルカラムおよび HPLC を繰り返すことにより *L. brassicoides* から新規物質 **1** を, *L. sagitta* から新規物質 **2, 3** を得た. 得られた化合物について 1D NMR (¹H, ¹³C), 2D NMR (COSY, HSQC, HMBC および NOESY), および高分解能 MS のデータを基に構造を決定した.

【結果と考察】 *L. brassicoides* および *L. sagitta* の根の抽出物より新規 Diels-Alder 型付加体を単離し, 構造決定した. 化合物 **1** は methacrylate との Diels-Alder 付加体であり, 化合物 **2** と **3** はそれぞれ eremophilane 型セスキテルペンのエステル部分とフランにおける cross Diels-Alder 付加体であった. 化合物 **2** と **3** は主として 2D NMR から立体化学に至るまで決定できた. 一方化合物 **1** は良好な結晶となったので, X 線結晶解析により立体配置を決定した.

